

経営比較分析表(令和3年度決算)

経営比較分析表とは、各公営企業の経営及び施設の状況を表す主要な経営指標とその分析で構成されたもので、公営企業の見える化を推進するため平成26年度決算から策定しています。

経営比較分析表を活用することにより、当該団体の経年比較や他の公営企業との比較、複数の指標を組み合わせた分析を行い、経営の現状及び課題を的確かつ簡明に把握することが可能となります。

指標の基礎数値は、市の病院事業会計と指定管理者が運営を行っている市立大村市民病院の決算値を合算したものを使用しています。

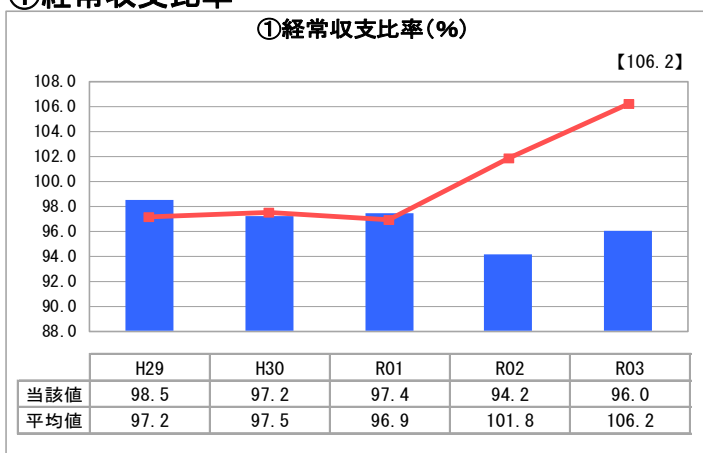
類似病院とは、一般病院を病床数で区分したものです。市立大村市民病院と同じ区分(200床以上300床未満)には全国で84病院あります。

グラフ凡例

- 当該病院値(当該値)
- 類似病院平均値(平均値)
- 【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

① 経常収支比率



【指標の意味】

医業費用、医業外費用に対する医業収益、医業外収益の割合を表し、通常の病院活動による収益状況を示す指標。数値が100%未満の場合、単年度の収支が赤字であることを示しており、経営改善に向けた取組が必要である。

【分析】

市民病院(指定管理者)は、令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響により4,800万円の赤字決算となりましたが、令和3年度は2,000万円の黒字となりました。

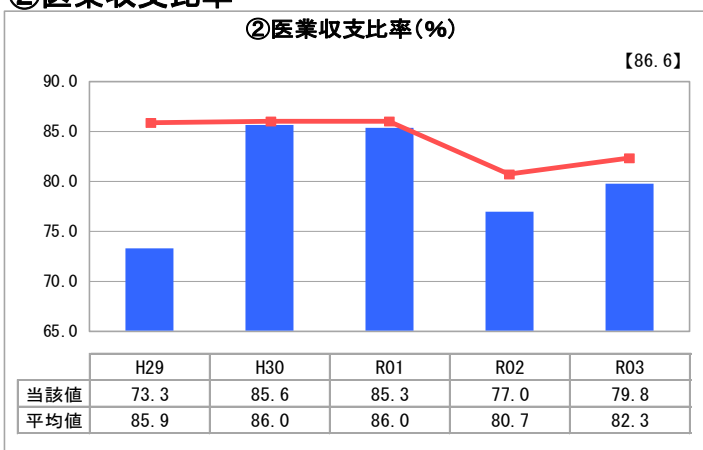
一方で病院事業会計(市)において、減価償却費の影響などにより令和3年度は2億2,900万円の赤字決算となったことから、指標が100%を下回っています。

類似病院平均値は大幅に増加していますが、これは国庫補助金等による医業外収益が増加したことが影響しています。

【参考】	R1	R2	R3
経常収益(A)	5,396,959	5,078,349	5,237,218
経常費用(B)	5,538,662	5,391,034	5,457,487

※経常収支比率(A÷B×100)

② 医業収支比率



【指標の意味】

病院の本業である医業活動から生じる医業費用に対する医業収益の割合を示す指標である。医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示すものであり、医業活動における経営状況を判断するものである。

【分析】

令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅に減少しましたが、令和3年度は患者数が増加したことから医業収益も増加し、比率も改善しました。

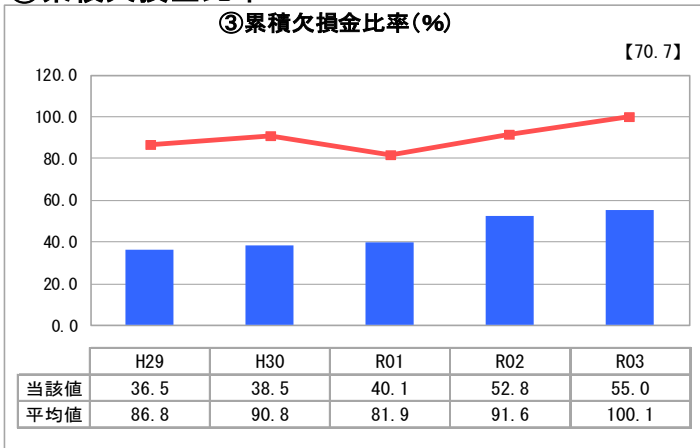
類型病院も同様の動きをしています。

なお、平成29年度が特に低くなっていますが、これは、病院建て替えに伴う資産減耗費(貸借対照表上の資産除却処理)が生じたためです。

【参考】	R1	R2	R3
医業収益(A)	4,612,359	4,095,724	4,307,525
医業費用(B)	5,408,250	5,318,483	5,395,814

※医業収支比率(A÷B×100)

③累積欠損金比率



【指標の意味】

医業収益に対する累積欠損金(当年度未処理欠損金、当期末処理損失)の状況を示す指標で、累積欠損金が解消されるよう経営改善を図っていく必要がある。

【分析】

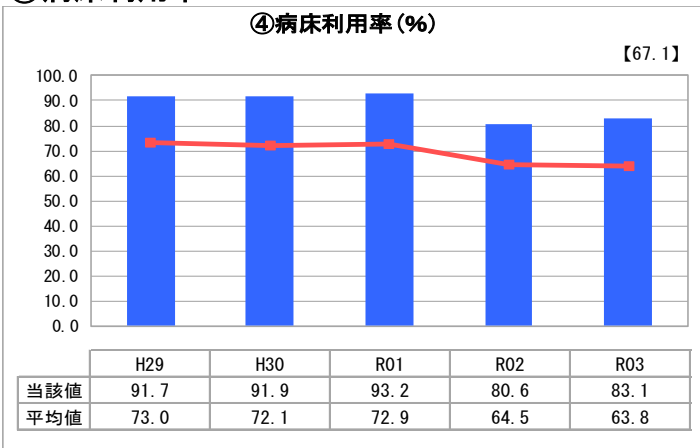
累積欠損金比率は、平成29年度に病院建て替えに伴う経理処理を行ったことで、大幅に減少しましたが、その後は病院事業会計の赤字決算が続いていることで増加を続けています。
病院事業会計は、市の一般会計からの繰入金によって賄っており、黒字化が困難ですが、少しでも解消するよう取組を進める必要があります。

R3 病院事業累積欠損金 **24億9,050万1千円**
市民病院利益剰余金 1億2,029万9千円

【参考】	R1	R2	R3
当年度未処理欠損金(A)	1,848,949	2,161,655	2,370,202
医業収益(B)	4,612,359	4,095,724	4,307,525

※累積欠損金比率(A÷B×100)

④病床利用率



【指標の意味】

病院の施設が有効に活用されているか判断する指標である。病床利用率が低い場合、病床数に見合う職員配置による経費が生じているにもかかわらず、それに相応する診療収入が得られず、経営悪化の要因となる。

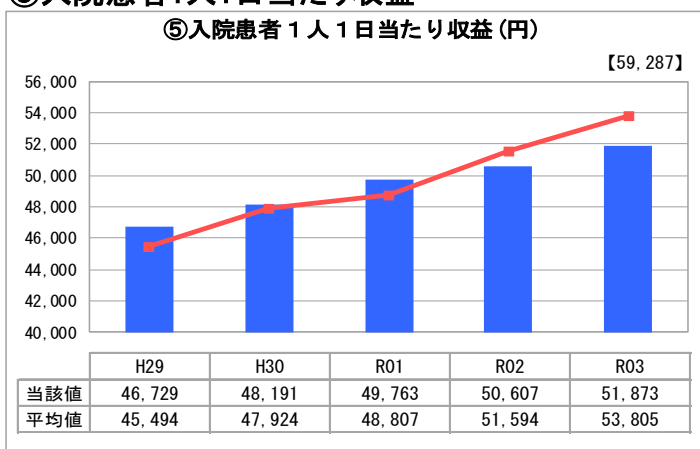
【分析】

平成29年度に建替え後の病院の供用を開始したことに伴い、平均値を超える高い病床利用率となっていました。令和2年度からは、新型コロナウイルス感染症の影響により減少しています。
病床利用率の確保は、病院運営を行う上で重要であるため、患者が安心して安定的に受診できる状況を確保する必要があります。

【参考】	R1	R2	R3
年延入院患者数(A)	73,649	63,583	64,906
年延病床数(B)	79,056	78,840	78,112

※病床利用率(A÷B×100)

⑤入院患者1人1日当たり収益



【指標の意味】

入院患者への診療及び療養に係る収益について、入院患者1人1日当たりの平均単価を示す指標である。減少傾向にある場合や、類似病院の平均より下回っている場合は、その原因について分析し、安定した収益が確保できるよう、改善に向けて検討することが求められる。

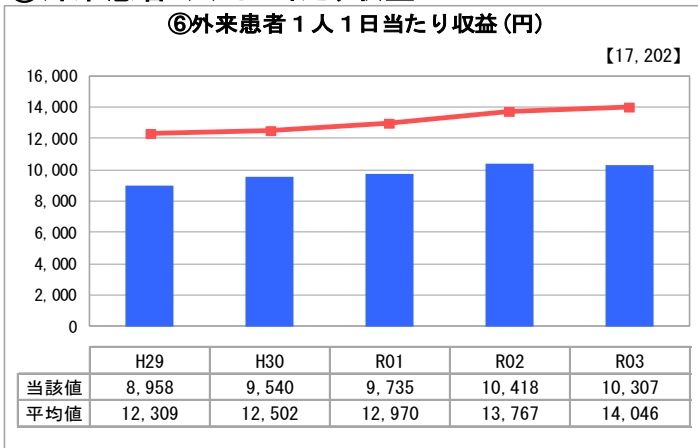
【分析】

入院収益、年延入院患者数ともに増加をし、当該指標も増加をしています。
診療科別でみると、入院患者数が最も多い内科(24,394人)の単価は42,827円、次いで整形外科(19,790人)が38,863円となっています。
最も単価が高いのは婦人科で、患者数542人に対し単価が108,219円、次に心臓血管外科で患者数4,948人に対し単価が100,055円となっています。

【参考】	R1	R2	R3
入院収益(A)	3,664,991	3,217,751	3,366,889
年延入院患者数(B)	73,649	63,583	64,906

※入院患者1人1日あたり収益(A÷B×1000)

⑥外来患者1人1日当たり収益



【参考】	R1	R2	R3
外来収益(A)	772,561	724,546	752,070
年延外来患者数(B)	79,361	69,550	72,969

※外来患者1人1日あたり収益(A÷B×1000)

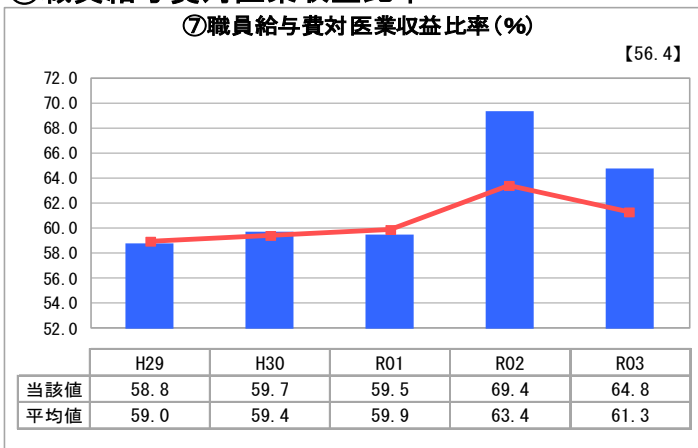
【指標の意味】

外来患者への診療及び療養に係る収益について、外来患者1人1日当たりの平均単価を示す指標である。減少傾向にある場合や、類似病院の平均より下回っている場合は、その原因について分析し、安定した収益が確保できるよう、改善へ向けて検討することが求められる。

【分析】

前年度と比較して外来収益、年延外来患者数ともに増加をしましたが、指標については若干減少しています。診療科目別にみると、最も外来患者数が多かった内科(16,735人)の単価は12,665円で、次いで整形外科(12,315人)が5,343円となっています。最も単価が高いのは透析で、患者数3,683人に対して単価が26,632円となっています。

⑦職員給与費対医業収益比率



【参考】	R1	R2	R3
職員給与費(A)	2,745,390	2,840,472	2,791,891
医業収益(B)	4,612,359	4,095,724	4,307,525

※職員給与費対医業収益比率対医業収益比率(A÷B×100)

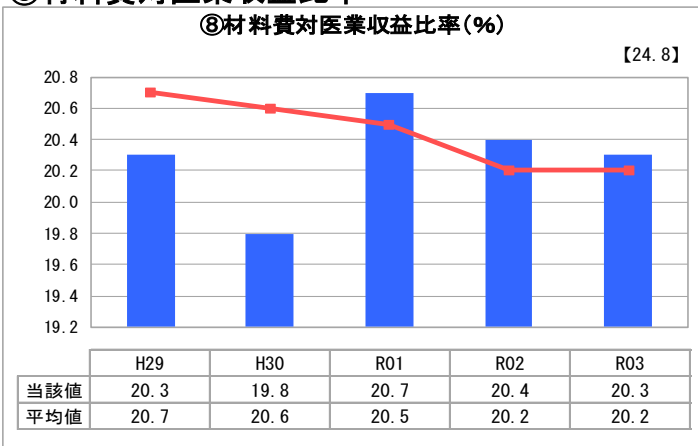
【指標の意味】

医業収益の中で職員給与費が占める割合を示す指標である。病院は人的サービスが主体となる事業であり、職員給与費が最も高い割合を占めることとなる。このため、職員給与費をいかに適切なものとするかが重要なポイントとなる。

【分析】

令和3年度は患者数の増に伴い医業収益が増加したことに加え、年間延べ職員数が令和2年度5,305人に対して令和3年度は5,205人となったことなどにより職員給与費が減少し、指標が改善しています。

⑧材料費対医業収益比率



【参考】	R1	R2	R3
材料費(A)	953,113	835,279	874,630
医業収益(B)	4,612,359	4,095,724	4,307,525

※材料費対医業収益比率(A÷B×100)

【指標の意味】

医業収益の中で材料費が占める割合を示す指標である。薬品費等を含む材料費は、費用のうち職員給与費に次いで高い割合を占める要因の1つである。

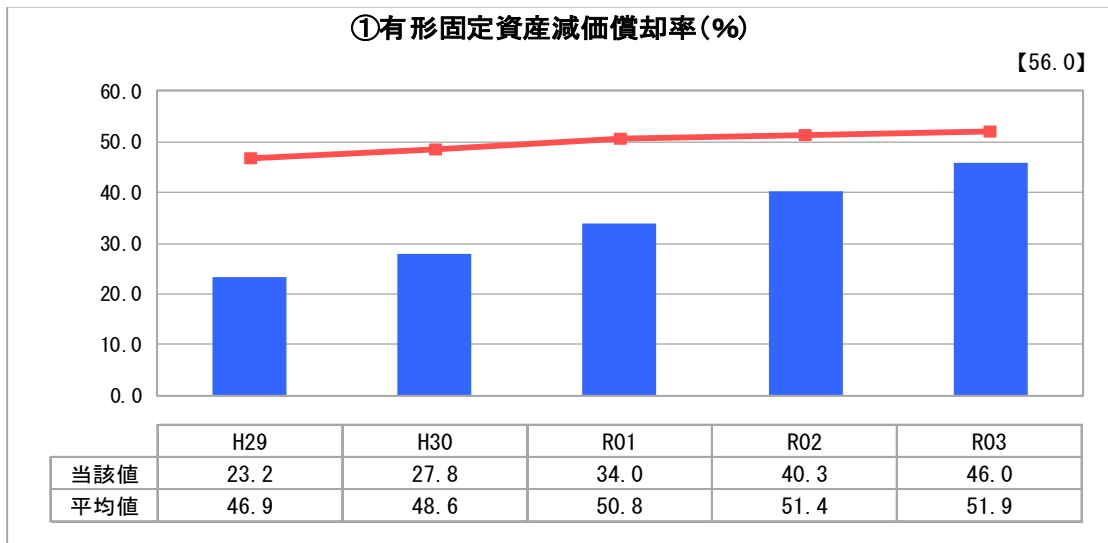
【分析】

材料費対医業収益比率は、平成29年度以降、類似病院平均値とほぼ同じ比率で推移しています。令和3年度は、患者数の増加もあり材料費が増加をしましたが、医業収益も同様に増加をしているため比率は横這いとなっています。

材料費内訳	R2	R3	増減
薬品費	267,489	250,396	△17,093
その他材料	525,002	580,935	55,933
給食材料費	42,788	43,299	511
合計	835,279	874,630	39,351

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率



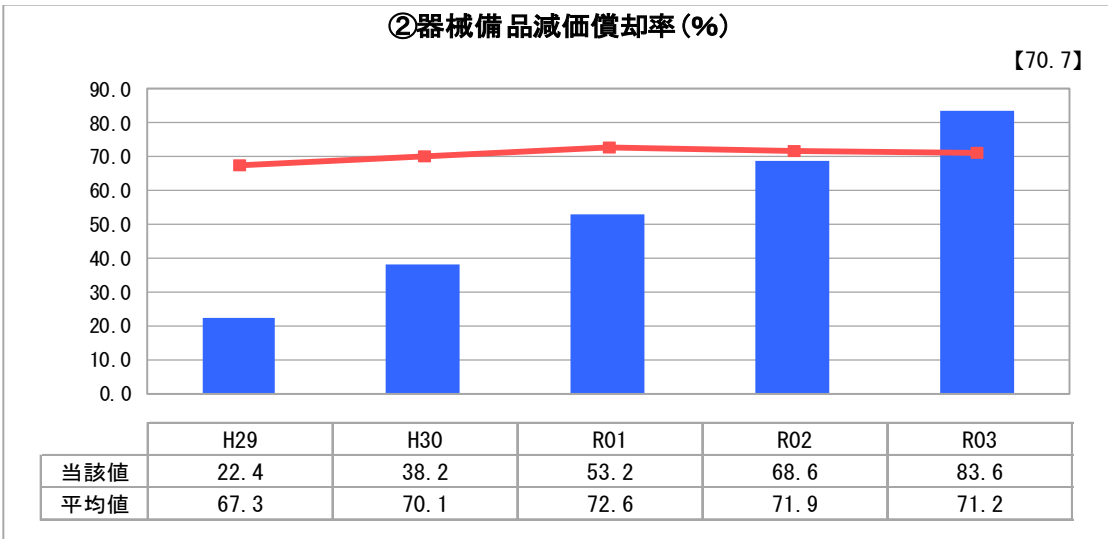
【指標の意味】

有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを示す指標で、資産の老朽化度合を表す。数値が高い場合には老朽化が進んでいることを示しているため、計画的な施設の更新等を検討する必要がある。

【分析】

平成28年度末に病院建替えが完了したことで平均値を下回っています。平成29年度以降は建替え後の病院と老朽化した機器の更新に伴い新たに購入した機器の減価償却を行っていることから、増加を続けています。

②機械備品減価償却率



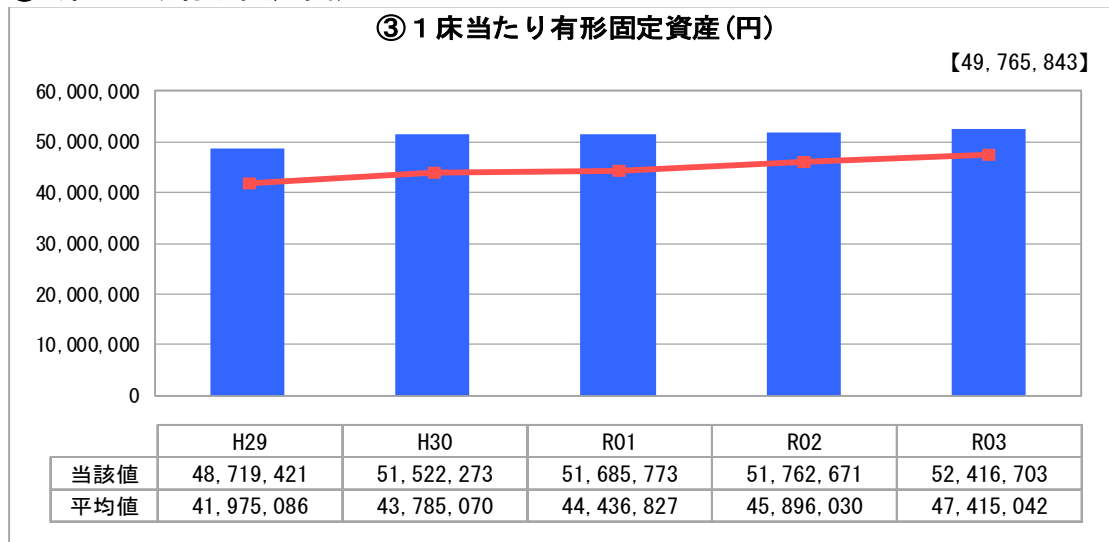
【指標の意味】

有形固定資産のうち医療器械備品の減価償却がどの程度進んでいるかを示す指標で、資産の老朽化度合を表す。①同様、数値が高い場合には老朽化が進んでいることを示しているため、計画的な施設の更新等を検討する必要がある。

【分析】

平成28年度の病院建替えと同時に更新を行った医療機器の多くが償却期間(耐用年数)が5年又は6年です。令和3年度末には更新から5年が経過したため、指標が80%を超え平均値よりも高くなっています。今後は、建替え以前から使用している機器に加え、建替え時に更新した機器の再更新時期も迎えるため、計画的な更新が必要になります。

③1床当たり有形固定資産



【指標の意味】

1床当たりの有形固定資産の保有状況を示す指標である。過大な投資は、将来的に減価償却費として収益的支出の増大にもつながることから、類似病院平均より上回っている場合は、その原因について分析し、改善に向けて投資計画の策定等を検討することが求められる。

【分析】

令和2年度までは一般病床212床＋感染症病床4床の合計216床としていましたが、令和3年度に感染症指定医療機関の指定が解除となったことに伴い、総病床数が212床になったため当該指標が増加しています。平均値と比較して大きくなっていますが、平成28年度末の病院建替えの影響が考えられます。

(参考)建替え前(平成27年度)数値:25,422,423